

Project	地域協働専攻 地域環境科学グループ
28	地域における音環境の調査と提案

メンバー	[学 生] 浅利 健太 / 後藤 洸哉 / 高田石 敦基 / 高橋 雄大 多賀谷 渉夢 / 林 桃歌 / 森田 歩里
	[担当教員] 今野 英明

【背景】

新型コロナウイルス感染症の流行によって、観光客が減少し、令和3年から回復の兆しがあるものの、以前までの観光客数に達していないという問題がある。そこで、本プロジェクトでは、函館の音を収録し、発信していくことで函館の魅力を地域住民のみならず、函館市以外に住む方にも感じてもらい、実際に足を運ぶ足掛かりとなる活動をしようと考えた。

【目的】

実際に函館に足を運んでもらえるよう、函館各地の音を収録し、発信することで函館の魅力を伝えることを目的とした。

【概要】

函館各地の音を収録し、Webサイトに公開した。今年度の新たな試みとして、Instagramで活動風景を発信し、より気軽な形で見て頂けるように工夫をした。また、リーフレットを作成し、函館各地に設置することで観光客や地域住民の方へ広報活動を行った。

【プロセスと成果】

音源収録は、立体音響での収録が可能な「ZOOM H3-VR」という機材を用いて行った。収録場所を昨年度よりも拡大し、函館山ロープウェイなどの函館市内計11か所に加え、大沼国定公園をはじめとする大沼・七飯方面の2か所の計13か所で収録した。収録した音源は「Audacity」「ZOOM Ambisonics Player」というアプリを用いて、聞き手が引き込まれるような音の立体感を意識しながら、音源の長さ調節等とともに編集した。

また、実際に函館に来た方向けに手に取って観光してもらえるようリーフレットを作成した。リーフレットの表面には地域プロジェクトの概要やSound MapのサイトにアクセスすることができるURLやQRコードを記載し、背景には函館各地の画像を使用し、函館の景観のよさについても伝わるような構成を心がけた。裏面には、Webサイトで使用しているものと同じのマップと、録音した音を聞くことができる場所の説明を載せた。場所と市電の路線図を併記したり絵を使用したりしたことで、訪問に関して直感的なわかりやすさを実現した。一方、あえて必要最低限の情報のみを記載にとどめた。これは、リーフレットを簡易的な案内にしたことで伝えたい内容がより明確になるのに加え、Webサイトへ誘導し、実際に収録音を聞いてもらおうとした工夫である。2023年1月ごろから約一ヶ月間函館市役所様などをはじめとした15カ所に設置していただき、合計190部配布した。

<データ>

- ・リーフレット持ち帰り部数: 151部/190部 (2月7日現在)
- ・Instagramのフォロワー: 206人/目標: 250人(2月7日現在)
- ・Webサイトのアクセス数: 194 (11月25日～2月7日)



【作成した Sound Map】



【作成した Web サイト】

<https://www.hakodatesound.com/>

【総括と反省・今後の課題】

私たちは、新型コロナウイルス感染症の影響により函館市の観光客が回復しつつあるという現状に対して、函館の音をリーフレットやWebサイトを用いて発信し、実際に函館に足を運んでもらえるよう誘致することを目的として活動を行った。

前期は、函館各地の録音をし、その録音した音の編集作業を行った。昨年度の反省を踏まえ、函館市外（大沼）の録音も行った。また、私たちの活動を広く知ってもらうためにInstagramを用いて活動の様子を発信した。

後期は、音の録音・編集作業に加え、リーフレットの作成とWebサイトの作成を役割分担して行った。リーフレットは函館市内の計15か所に設置させていただいた。様々な施設へのアポ取りからリーフレットの設置まで丁寧かつスムーズにやりとりをする様子がみられた。

反省点としては、今年度はInstagramの活用方法を、活動の様子発信やリーフレット・Webサイトの宣伝にとどめてしまったため、私たちの録音した音を聴く方法がWebサイトを見てもらう以外になく、多くの方々に音を聴いてもらうことが難しかったことが挙げられる。また、リーフレットの枚数が全体的に少なく、函館山ロープウェイやホテルなど観光客の出入りが多い施設では不足してしまった。

今後の課題は、広報活動の際、InstagramだけでなくTwitterも活用するなど媒体を増やすことや、リーフレットの配布の際、人々の目につくようポスターも作成するなど、広報の方法の検討を行う必要があると考えられる。また、リーフレットを作成する際は、外国の方にも配慮したり、配置する枚数を検討したりすることが考えられる。

作成したWebサイトには、前期から録音していた函館各地の音をSound Mapや住所、アクセスとともに載せた。Sound Mapには、函館市電の経路やシンボルを記し、録音した音がどこで聞けるのかを視覚的にわかりやすく工夫した。また、Webサイトを訪れた方でもリーフレットを印刷できるようリーフレットのデータも掲載した。

【地域からの評価】

音源の収録やリーフレットの設置等の活動を行う中で、私たちの活動を知っていただき、協力していただいた函館地域各施設の多くの方々から「魅力的なプロジェクトだ」、「活動内容が面白い」などの好意的な声をいただくことがあった。

また、活動に対して関心を持っていただいた函館市役所観光部の皆様からは、「初めて見た人にもわかりやすいようにSound Mapについての説明があるといい」、「それぞれの音スポットの魅力や情報を追記し、さらに興味を持たせてもいい」、「音についてのコメントがあっても良い」など、今後の活動にも反映していけるようなご意見をたくさん頂戴することもできた。

加えて、リーフレットに記載した任意のアンケート調査においても「いつてみたいと思った」などの感想をいただくことができた。

地域プロジェクトの成果発表会においても、本プロジェクトに対してたくさんの意見が寄せられており、中でも「音」と「観光」を結び付けて地域の魅力を発信しようと考えた点について「斬新」や「興味深い」というポジティブな意見が多かった。

今回の活動においても、まだまだ地域プロジェクト自体の説明や本活動の広報をもっとした方がいいという指摘もあったが、お声がけをいただいたおかげで函館のラジオに出演することもでき、前年度よりも広報活動の幅を広げることができたと思う。

【年間スケジュール】

- 〈4月〉 録音機器の操作確認
- 〈4月～11月〉 音源収録
- 〈4月～2月〉 SNSでの発信
- 〈6月～1月〉 Webサイトの作成
- 〈9月〉 中間発表会
- 〈11月～1月〉 リーフレット、アンケートの作成/印刷
- 〈1月〉 最終成果発表会およびその準備、ラジオ出演



【函館市電】



【音源収録の様子】

【謝辞】

本プロジェクトの活動について、音の収録やリーフレットの配布にご協力をいただいた函館市内各施設の皆様をはじめ、活動についてのご意見をくださった函館市役所観光部の皆様、地域の皆様には深く感謝申し上げます。また、プロジェクトを知ってお声をかけてくださったFMいるかの皆様、本当にありがとうございました。

